

2015年度
前期科目履修終了時評価
に対するコメント
【看護学研究科】

人間環境大学 FD委員会
看護学部・看護学研究科分科会

NO	授業コード	授業科目の名称	担当教員	コメント
1	MA0101	看護学研究法特論M	森・倉田・西川・郷良・北川	質的・量的研究法、調査研究法、実験的研究法を学修し、研究プロセス、論文作成法を理解するという授業目的に対し、評価視点の4項目は概ねできていた。オムニバスで、各教員からの配布資料は参考になり、研究の準備段階に入ることができた。種類の異なる論文をクリティークすることで、授業内容と結び付けられ、さらなる知識不足を感じた。その他の意見としてクリティーク時間を増やしてほしいとの要望があり、次年度の検討課題とする。
2	MA0401	看護理論特論M	小笠原 知枝	授業目的:看護理論の変遷とさまざまな理論の構造と特徴及び限界について知識を深めるとともに、看護理論の活用方法を探求して、各看護専門領域の実践・教育・研究に不可欠な論理的な思考能力を高めることを目標とする。履修終了時評価表の評価項目5(3点・4点で自己評価していた)受講者の評価やコメント:①臨床で考えていなかった看護理論や看護診断を考えることで、「看護とは何か」「看護独自の機能」について改めて考えられた。②なんとなく理論を理解していたことがとくわかった。講義で再度学習し、理解できたところと、不十分な部分があるため、再度、学習しようという意欲に繋がる授業であった。③パワーポイントの教授でとても理解出来た。現場では看護理論を遠慮することが多いが、教授のたくさん話し方であつという間の90分④理論を自分で発表することにより、理論が深まり、今まで使ってこなかった中範囲理論にも興味をもって取り組むことができた。
3	MA0601	看護倫理特論M	内藤・森・小笠原	今年度は、履修者全員が、科目を主体的に取り組めたと評価しており、おおむね科目の目的は達成できたと思える。次年度も、講義、課題学習の発表、グループ討論やデベートなどの学習方法から、多義的に、身近な事例を抽出し、臨床看護や教育、研究の現場での看護倫理について学べるよう、さらに学生参加型の講義方法の工夫に努力する。
4	MA2301	病態生理学特論M	太田・田中・竹川	プリントならびにスライドによる講義を行い、好評だった。しかし講義の分野が広く、その中でどの内容を重点的に講義するかについて、若干の改善すべき点があったと思われる。また7限目(7時40分から)の講義であったが、6限目の方が学生への負担が少ないと思われるので、次年度には6限目に変更したい。
5	MB0101	看護教育学特論M	小笠原・篠崎・伊藤	授業目的:教育心理学・教育学の基礎的知識を基盤に、さまざまな生活状況下にある看護対象に実践活動ができる能力・資質を養う。リーダーシップ能力やカウンセリング能力を高め、看護職の専門的実践能力向上のために、専門看護領域の教育活動を探求する。履修終了時評価表の評価項目6(受講者は3点・4点で自己評価していた)受講者の評価やコメント:①看護教育の歴史や看護学のカリキュラムなど看護教員としておさえていないといけないことを知ることができた。次は実際の的方法論についても勉強しなくはと思う。時間割は土曜日でよかった。②看護教育の歴史に始まり、カリキュラム、評価など基本的な内容に加え、事例などを混えて説明・教授され、わかりやすかった。③今まで自分の経験を活かしながら根拠を理解していく授業内容であり、興味を持って取り組むことができた。④学んだ内容を常に振り返りつつ学習、知識を深めてゆきたいと思う。
6	MB2101	看護保健管理学特論M	藤原 奈佳子	科目の目的は包括的な看護保健管理上の課題をみいだすことができるために、社会情勢をふまえた看護実践の基盤となるヘルスケアシステムや看護の質について探求すること。評価項目数3。受講者コメントは、課題をレポートにまとめ発表することにより理解が深まった。ディスカッションで自分とは違う意見を知ることができたなど。用いた文献の多くは調査報告であったが、データを丁寧に読みとり、看護保健管理上の課題について探求した。今年度は院生の身近な課題に集中したが、系統的な授業の展開ができるように今後の授業方法への工夫が必要である。
7	MD2101	エンド・オブ・ライフケア看護学特論M	小笠原・島内・朝倉・加藤	授業目的:エンド・オブ・ライフケアにおいて総合的で質の高いケアを提供するために国内外の関連する法制度・ケア提供システムと看護の機能および研究動向について理解しわが国の課題を検討する。エンド・ステージにある患者家族の生活環境と年齢層の相違によるケアニーズの特徴を理解しQOLとQOD(Quality of Death)を高めるケア方法を検討する。患者と家族への告知と意思決定、インフォームド・コンセント、Total Pain、Spirituality、Grief & Mourningの概念を理解し、実際のケア支援方法を修得する。介入研究やEBNを検討しエンド・オブ・ライフケア看護学の科学的思考力と実践力の向上をめざす。履修終了時評価表の評価項目5(受講者は3点・4点で自己評価していた)。受講者の評価やコメント:①諸外国とわが国のエンド・オブ・ライフケアシステムの比較などを知ることができ、視野を広く持ち学習する姿勢が変わった。また初心に戻り患者にとってのケアゴールを意識した看護の必要性を再認識できた。②人生のゴールを考えたかかわりの必要性を深められた。どの講義も興味を持ち学習でき、心打たれる内容であった。点)。

NO	授業コード	授業科目の名称	担当教員	コメント
8	MD4101	高齢者看護学特論M	臼井・安藤	科目の目的は、①諸外国の高齢者ケア制度等を理解し、わが国の課題を明確化する、②自尊心を尊重したケアの選択・意思決定とセルフケア能力の向上や各種理論の理解・応用によりアセスメント・実践・評価方法を明確化する、③高度な実践力・リーダーシップ力・看護管理能力の向上の以上3点である。履修終了時評価の設定項目数は5項目であり、平均評価割合は88.0%、学生自身の主体的取組の平均は80.0%であった。科目選択者は全員高齢者看護学専攻以外の学生であったが、学生の評価は高く、超高齢社会に対応した質の高いケアの実現を目指し、国内外の最新情報を踏まえた講義内容を工夫し、また中間時点で科目目標の達成状況を把握し、後半の講義内容を調整したことが大きいと考える。来年度も学生の能力・背景等を踏まえた講義展開をしていきたい。
9	ME0101	在宅看護学特論M	島内・石井・福田・山本	科目の目的は在宅ケアにおいて自立した実践リーダー・管理者・教育者になるために必要な知識と技術力向上をめざす。国内外の制度、サービスシステムの理解。ケアの質保証に向けて看護実践力を高めるためにニーズとケアの判断力・社会資源の活用・困難事例の適切なケア計画とケアマネジメント・チームケア展開方法およびアウトカム評価方法、運営管理方法について行った。各学生は積極的に参加し授業では資料を読んできて発言していた。学生による到達度評価は7項目で到達度と満足度は全員が高かった。
10	ME2101	地域看護学特論M	三徳・石井	目的:保健師活動のコアになる理論と実践技術を学習する。個と集団、行政等、国内・外の先駆的な活動実践例により地域看護に必要な能力を養う。 評価項目設定数:5項目 受講者コメント:視野が広がった。研究テーマへの学びが深くなった。母子から高齢者までのコマの進め方が良かった。教員の論文を活用しながらの講義はわかりやすかった。 教員コメント:受講者の関心が精神保健に有るので、そこに焦点を当てて15コマを展開した。受講者のニーズを把握して進めていくことが大切であるとする。
11	ME4101	国際保健看護学特論M	西川・市川	・科目の目的:国際保健看護学を学ぶことによって、世界の人々への平等なヘルスケアを目指す。将来、国際的な視野で物事を考えて活躍する基礎を学び、実践リーダーや教育者として活躍する。具体的に学ぶのは、国境を越えて移動している人々(2)平等なヘルスケアをて供するため、現状を知る(3)世界の看護の移動(4)世界のエイズ問題(5)ヘルスにおける世界トップの動向を知ることである。 ・履修終了時評価表の評価項目の設定数:5項目 ・受講者よりどのような評価やコメントがあったか。 授業の優れた点:この授業を介して、世界のヘルスについてや日本の置かれている立場が理解できるようになった。いろいろな国の状況を考えるようになった。 問題点、改善すべき点:時間的にオーバーすることが多く、時間内に終了することが課題となった。
12	ME6101	精神看護学特論M	郷良・松浦	学生より、意見が自由に言え、自己の傾向に気づくことができる。指導教員以外の教員の意見も聞けて参考になり、さらに自身の考えが深まったなどの意見があり、学習の達成目標は、概ね4点の「出来た」の評価で、最終レポートでは主体的に学べていることが確認できた。「精神看護学の知識を駆使して、自らの実践や職場の問題を振り返る」ことが、精神看護学特論Mの目標として重要であることも確認できた。
13	DA0101	看護学研究特論D	島内・北川・西川・藤原	科目の目的は自立した研究者としての看護学の学問的発展に貢献できる研究者となるために領域別特別研究前の研究計画の共通基礎に当たる。研究が異なる4名の教員によって研究計画の理論や計画の実例および既発表原著論文例を加えて行った。最後の2コマを各学生の研究計画発表に当て、その後グループ討論をしたことは自己と他者の研究計画を評価する機会となり、授業到達度を高めたと感じている学生が多く、学生による到達度評価は7項目で高得点で満足度も高かった。
14	DB0101	看護教育学特論D	小笠原・篠崎・伊藤	授業目的:看護実践能力を高めるための看護教育学研究と基盤看護学研究に基づく生成された理論・概念・モデルを探求する。これを基に、看護科学の独自性とその研究方法論について、他の人間科学と対比し、その関連性を分析して論ずることのできる批判的思考能力を高め、教育的方策に反映させる。履修終了時評価表の評価項目4(受講者は3点・4点で自己評価していた)。受講者の評価やコメント:①基本的なところから体系的に学習してもらい、自分の授業構築にも役立てることができた。また理論を背景とした教育についても再度学習できたので、効果的であった。②さまざまなことの起源や根拠から最新の動向まで理解しやすく楽しく学ぶことができた。③看護教育に関わる上で必要な知識を具体的に窮してもらったので、勉強になった。パワーポイント資料ももらったので、これからさらに理解を深めていけるように学習していきたい。

NO	授業コード	授業科目の名称	担当教員	コメント
15	DB2101	看護保健管理学特論D	藤原 奈佳子	看護周辺領域の学問体系の考え方にもふれながら、看護の質とは何かを探求し、看護の質向上のための方策をみいだすことを目的としている。評価項目数4。受講者コメントは、研究への考え方の指導が具体的でありよかった、など。
16	DC2101	リプロダクティブヘルス看護学特論D	北川・内藤	科目の到達目標に向かって履修者全員が、主体的に取り組めたと評価しており、ほぼ科目の到達目標は達成できたと判断する。次年度も、博士論文作成に有用な特論講義になるよう、関連の理論学習や、研究手法や、文献クリティークを重点的に探究でき、論文作成が促進できるよう充実した講義内容の工夫を重ねる。
17	DD2101	エンド・オブ・ライフケア看護学特論D	小笠原・島内・加藤	授業目的:エンド・オブ・ライフケアにおいて総合的で質が高いケアを提供するために、諸外国の関連する法制度・ケアシステム・ケアの実態・看護の機能また研究動向を理解、分析し、エンド・オブ・ライフケアの理論生成過程を明らかにする。ケアリング力向上と科学的思考力を高めるために緩和ケアに必要なアセスメント・ケア実践・ケアの測定尺度を含む評価方法などを学修し、これらの看護の専門的機能、ケアシステム評価方法、ケアの質管方法を修得する。これらによって自己研究を進めることに反映させる。履修終了時評価表の評価項目5(受講者はほとんど4点で自己評価していた)。受講者の評価やコメント:①実際の研究論文や先生方が出版されている文献をされ、読み込んでいくため、詳細な説明があつてわかりやすかった。学生数がもう少しあれば、グループワークやディスカッションができ、より理解を深めることができたと思う。日米比較では、アメリカの現場も理解出来てよかった。
18	DD4101	高齢者看護学特論D	臼井・安藤	科目目的は、高齢者看護の研究動向の分析・評価から最重要課題に対するケア展開方法・評価方法を学修し、学生各自の研究課題の設定と研究の進行に反映することである。履修終了時評価の設定項目数は5項目であり、平均評価割合は88.4%、学生自身の主体的取組の平均は93.3%であった。授業でよかったことの自由記述では、学生全員が丁寧に指導してもらえて知りたいことが学べたと回答し、時間割については全員が社会人であったが、勤務状況によって時間割を調整してもらえたため、仕事を継続しながら学ぶことができたと回答していた。次年度も学生の背景・研究課題に合わせて有意義な学びが得られるよう調整しつつ講義を進めていきたい。
19	DE0101	在宅看護学特論D	島内・石井	科目の目的は在宅ケアにおける諸外国制度・サービスシステム、国際研究の動向を分析して、在宅ケアの質向上と量的拡大のために実践に活用できるエビデンスの作り方、研究エビデンスの活用、ケア実践からアウトカム評価などから自己研究計画に反映できるようにすることをめざす。学生は各自内容を理解することで精一杯の感じであったが、授業のたびに各自の博士論文計画に活かす工夫をして特別研究D1の授業に反映させていた。学生による到達度評価は4項目で比較的高かった。
20	DE2101	地域看護学特論D	三徳・西川	目的:地域で生活する人々の健康水準の向上を目指し、地域看護の実践と研究の相互関係を討議しつつ進めた。 評価項目設定数:5項目 受講者コメント:講師の経験を踏まえた講義は理解しやすかった。討議では、自分の気づきが多かった。 教員コメント:受講者のニーズを把握しつつ、進めていくことが大切であると考え る。